

第2回国際観光都市としての機能整備に関する研究会
議事要旨

1 日時 平成29年9月14日(木) 午後2時から午後3時30分まで

2 場所 あいち国際プラザ2階 アイリスルーム

3 出席者(敬称略・五十音順)

【委員】

井澤 知且(名古屋学院大学現代社会学部 教授)

黒田 達朗(名古屋大学大学院環境学研究科 教授)

林 大策(愛知淑徳大学交流文化学部 教授)

水尾 衣里(名城大学人間学部 教授)

村上 心(椙山女学園大学生生活科学部 教授)

※ 内田俊宏委員は欠席

【オブザーバー】

常滑商工会議所

牧野克則会頭、

澤田研一副会頭、伊奈憲正副会頭、磯部栄人づくり委員会委員長

4 議題

国際観光都市としての機能整備の方向性について

5 議事概要

事務局から資料について説明した。

主な意見は次のとおり。

委員等からの主な意見（概要）

【資料2 中部国際空港エリアの主な施設等について】

（井澤委員）

- 空港エリアという範囲は、空港島プラス対岸分も含めて空港エリアという考えでよいか？
（→事務局より、「そうである」と回答。）

【資料3 国際観光都市としての機能整備の方向性、導入すべき機能のイメージについて（1～3ページ）】

（井澤委員）

- I Rを導入する場合、事業者がカジノ部門、ホテル部門、M I C E部門を運営することを考えると、囲い込むことがビジネスとしてはやりやすい、経営としてはそちらがいいという議論になりがちだと思う。
- しかし、空港エリアで完結することと、国際観光都市という愛知県の求めるテーマとが、整合が取れているのかを検討すべき。
- 各地域に人を送り出す機能など、開閉のバランスをどう取ればよいかを含めて、方向性の中でうまく明示できるとよい。

（林委員）

- 愛知は産業県であり、M I C Eの誘致は強みと言える。しかし、市民から見ると、M I C Eは非常に遠い存在であり、わかりづらい議論である。市民の不安を解消するため、市民へしっかりとした説明をしていくという当たり前のことをしっかり行っていくべき。
- M I C Eとともに、エンターテインメントやホテルなどのアフターコンベンションの充実が必要。ここを置き去りにして議論すると、結局は機能中心型になって競争力もなくなるのではないか。
- アフターコンベンションに値するものが愛知県に本当にあるか、ホテルが進出してくれるかといったことなど、トータルで考えていかないと、M I C Eだけを誘致していくのは難しいのではないか。

（水尾委員）

- 今ある航空路線では集客に限度がある。中部国際空港から入ってくる方々だけでなく、関東、関西、北九州など日本全域から人を引き込み、愛知を現在の経由地から、滞在地にするようにオールジャパンの視点で考えるべき。
- 日本全体のコンシェルジュ機能を中部国際空港が持つようなイメージで整

備していけないと、魅力的にはなり得ない。

- 「エンターテイメント施設」とは、器のことか、それともコンテンツを具体的に考えて持ってくるということか。
(→事務局より、「両方の要素で考えている」と回答。)

(村上委員)

- ビジネスマッチングのイメージ、たとえば、愛知と世界なのか、世界と世界がそこでやって愛知に還元するののかという具体的な内容のイメージと、そのプロセスを検討し、その効果を精査するとよい。
- 地域連携について、「周辺地域」の範囲はどこを指し、どのように連携するか、I Rを誘致した場合、I Rの収益施設による利益の還元方策をどう具体的にかなどがないと、県民に理解を得られないのではないか。
- 世界の富裕者層が愛知に訪れたいくなるような、愛知だけにしかないようなエンターテイメントを、今後、考えていかなければならない。

【資料3 国際観光都市としての機能整備の方向性、導入すべき機能のイメージについて(4~7ページ)】

(井澤委員)

- 空港島と空港の対岸部でI Rは完結させていくのか、あるいは空港エリア外まで機能整備を進めていくのか、I Rの施設全体のスケール感(敷地面積や施設規模等)を考えていくべき。
- I Rから県内等へ効果を波及させていくためには、地域文化のショーケースのようなものを導入機能として位置付け、展開することが必要。

(黒田委員)

- MICEの定義をどう置くかということがポイントとなる。
- 観光庁の統計データでくくると、日本のMICEで一番多いのは学会であり、学会が現在のMICEの中心になっている。
- 学会は大学内で開催することが多いが、医学系の学会、会議は、人数の規模が大きく展示スペース等が必要になるため、大学ではできない。
- 東京や大阪の展示場は、製造業中心の展示会が圧倒的に多い。空港島にかなり広い展示スペースができるので、それを最大限に生かすため、企業、産業関係に焦点を当てなければいけない。
- 国際展示場の中には会議室も計画されているが、世界の要人を呼ぶことなどを考えると、しっかりとした会議スペースがあった方がよい。
- カジノがターゲットとしている方々と、展示場がターゲットとしている

方々はかなり違うグループである可能性が大きいので、それをどう整理していくかが課題となる。

(林委員)

- 総花的な内容になっているが、そこをどう掘り下げていくか、いかに愛知らしさの特色を出していけるかが重要。
- ライバルが多くいる中で、どういう特色を持てば誘致できるか向き合うことが重要。議論を総花的に上滑りさせず、勝負できるコンテンツを見極めて、覚悟を持って育てていかなければならない。
- 現在建設予定のある周辺宿泊施設と、I Rのホテルとはかけ離れている点も問題である。

(水尾委員)

- 空港島に、大型クルーズ船が着岸できるような施設をつくるというのはどうだろうか。
- 面積を制限してできるものとするのか、やりたいことがあり、そのために必要な面積を確保すると考えるのか、スタンスを明確にすべき。
- 導入すべき機能の中に、もっと新しい技術を使ったものの提案があってもよい。
- これからたくさんの人に交流してもらおうとすると、空港島へのアクセスは課題である。
- 例えば、自動車専用道を作って無人で燃料電池車を走らせたり、ロボットのエネルギーを燃料電池で賄うなど、未来の空間として日本最先端のI Rにするというような、インパクトを与えることを考えていただければと思う。

(村上委員)

- 韓国のパラダイスシティは、子どもも楽しめるようになっていて、プールも何箇所もあって非常にゆったりできる。ホテルの値段設定も含めて、富裕層が来るであろう魅力がある。
- I Rを誘致した場合、空港島と前島にI R施設を制限すると広がりがなく、提案に対する魅力が欠けてくる原因になる。
- カジノ施設に関してはエリアを限定してもいいが、効果を波及させるべきI R関連施設については、柔軟にエリアを広げる発想の計画があってもよいのではないか。
- 空港島へのアクセス手段について、アクセス人数を想定して整備を考えた方がよいのではないか。

- 愛知の最先端技術を世界にアピールする展示をするという考えは非常にいい発想である。愛知と世界をビジネスマッチングするとともに、エンターテインメントにも応用したい。

【資料3 国際観光都市としての機能整備の方向性、導入すべき機能のイメージについて（8ページ）】

（井澤委員）

- 導入する機能について、客層にあわせた形の整備があると思うので、どういう客層を狙って国際観光都市を目指すかをそれなりに明確にしておくべき。
- I Rの導入には、正の側面とともに、負の側面もある。両方の側面にかかわるを提供いただけると公平な判断ができると思う。

（黒田委員）

- カジノが仮にできたとして、その収益の配分について興味が引かれるが、それは最終段階にならないとはっきり提示できない話。しかし、先行しているところや、常滑市であればボートの収益がどう配分され、地域にどれくらい効果があるかなどはどこかで検討する価値はある。
- 国際観光都市は、常滑市だけで考える話なのか、県全体を視野に入れた議論をすべきかは、今後議論したい。
- 富裕層と一般的に言っても、セントレアに来てくれそうな富裕層とはどんな人たちなのか。施設整備のあり方も含めて、ターゲットとする客層について、話を絞り込んでいかないといけない。

（林委員）

- この地域は観光に対する意識が弱い地域である。市民の方たちにもこの機会に一緒になって考えてもらうような課題の提示をしていくことが求められる。
- 新しい技術の導入などを打ち出していくなどして、地域の方へ参画意識を持っていただけるよう、外への見える化に取り組むべき。並行して、観光の分野もみんなで考えていくべきである。

（水尾委員）

- 富裕層のイメージは人それぞれ。面積的に限られたエリアで、富裕層の求めているものを提供し、周遊に結びつけるのは難しい。
- 私が見る限り、富裕層は周遊せず、ホテルの中のプールに行ったり、カジノへ行ったり、ということをしている。

(村上委員)

- MICEがまずあって、結果的に国際観光都市になればよい、というような資料のバランスになっているように見える。
- どうすればゴールとしての国際観光都市といえるのかという絵をきちんと描いて、そこにMICEやIRをどう使えるのかという順序で考えないと、空港島の施設をどうつくるかという話になってしまうので注意が必要。

(常滑商工会議所牧野会頭)

- 委員がおっしゃったご意見は、全て大きな課題と思っている。今後、どういう地域にしていくかということ、我々もまとめてみたい。

(常滑商工会議所澤田副会頭)

- セントレア、空港ができてからは非常に嬉しいニュースがたくさんあり、夢の多い地域だと思っている。国際観光都市と常滑が結びつくようないい街にしていきたい。

(常滑商工会議所伊奈副会頭)

- 常滑には海があり、空が広い。マリンスポーツ、ジョギング、サイクルなど健康を切り口とした「やきもの」の街をめぐる企画によって、常滑の魅力を高めていくことができると考えている。

(常滑商工会議所磯部人づくり委員会委員長)

- 常滑には競艇があり、60数年間、市の福祉や教育予算に貢献してきたと考えている。